

『百人一首』 中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (九)

わびぬれば今はた同じ難波なる
みをつくしても逢はむと思ふ

元良親王^{もとよしんのう}

〈歌意〉

「あなたに逢えないつらさにもう、身を滅ぼしたと同じです。難波にある『濤標(みをつくし)』のように、身を尽くしてでもあなたに逢いたいものです。」この歌は『後撰集』(恋五・九六一番)に出ています。
○今はた同じ 「はた」はもはやの意。

(元良親王)

寛平二(八九〇)年〜天慶六(九四三)年、五四歳。陽成天皇の第一皇子。

〈字母〉

も
あ者むと所
おもふ
②

王悲ぬ連ハいま者多於な
じ
那尔ハ奈る
身をつく志
て
①

左の主集団から右の小集団へ戻って完結する「逆勝手」で書かれています。
(青藍)

